

# ファッションで浜松の街へ旅立とう!

## 佐々木まり子

肴町のレディースブティック「Sun Marry」オーナー。Sun Marryは、お客様は3歳から100歳、取扱ブランドは50以上という幅広いバリエーションを持つセレクトブティック。おしゃれのお手伝いで、関わる全ての女性をより素敵にして、最高の笑顔を引き出したい!と日々奮闘中。  
HP <http://www.sunmarry.com/>  
ブログ「さんまり日記」 <http://sunmarry.hamazo.tv/>

「空耳でしょうか…ネコの声が聞こえるんです。」スタッフTさんが訝しげな顔をしていたGW初日。翌朝には、「にゃあ…にゃあ…」とTさんの空耳は私たちにも伝わり、か細いネコの鳴き声は壁から天井からあちこちで聞こえ始めました。閉店後いよいよ気になり、私は店の脇にある狭い階段を昇って、上の階のバーのドアを開けることに…ここで私の、ネコの声のありかを探す「旅」が始まりました。

お恥ずかしながら、この肴町へ引っ越してきて7年の間、私は自分がテナントとして入っている雑居ビルにどんな方が居るのか、殆ど知りません。初めて言葉を交わしたバーのオーナーのお兄さんから「赤ちゃんネコが階段前にうずくまっていた」と証言をもらい、今度は違う階段へ…このビルは、様々な入口のある複雑な構造をしており、市街地活性化活動の一つ、リノベーションまちづくり事業の舞台にもなっています。普段は全く足を踏み入れたことのなかった、シャッター奥のらせん階段の先には、ちょうど、今公開中の「新宿スワン」の歌舞伎町の世界のよう…味わい深い昭和風の雑居ビルのような、およそ想像もつかなかった、面白くもちょっとゾクゾクする光景が広がっていました。

思えば、私は子供の頃から街の探検が好きで、浜松の「街っ子」であった私は、学校から自宅まで10分の道を、「パイナップルじゃんけん」で2時間かけるような子供時代を過ごしてきました。「ちよこれえと!」チョコキを突き出す友人の影の先に視線を延ばすと、バームクーヘンの甘ったるい香りのする菓子屋の工場があり、野良猫が寝そべる路地裏があり、毎日新しい風景に出会うのが楽しくて、私は友人の影が長くなるまで、いつまでもじゃんけんを続けていたのを覚えています。それが大人になるにつれて、「時は金なり」とばかりに慌ただしく新幹線やタクシーを使い、「グリコ(ゲー)」の手の中にはいつもiPhoneが握られ、私は、いつの間にか周りの景色にゆったりと目を遣る事もなくなっていたように思います。

ビルの中を、聞き込みを続けながらさまようこと2時間…途方に暮れた頃に、ネコはなんと店の壁と階段の隙間10センチ足らずの空間に迷い込んでいたことが判明! どうりで、壁から天井からネコの声が響きわたっていたはずです。

結局、手のひらに乗るほどの赤ちゃんネコは、発見から10日目にして、友人Mさんの協力で無事に捕獲。今は、Mさんの知り合いの手でミルクをもらい、スクスクと育っているそうです。ここで私のネコの声探しの「旅」は無事に終了。今年のGWは、仕事と少しの祭りとお兄さんと道で笑顔で挨拶を交わすようになり、来週には再びお客としてそのドアを開こうか、と計画しています。こうして、毎日自分が過ごしているビルの中でも、新しい風景が広がり、新しい人間関係ができるものです。

フランスの作家マルセル・ブルーストはこう言っています。

「本当の旅の発見は新しい風景をみるのではなく、新しい目をもつことなのだ。」

つまり、ただ「見る」だけでは、世界中どこを巡ってもただの観光になってしまう。旅先の見知らぬ風景を通して、感性を揺すぶられたり、新しい視点を持つことが、旅の醍醐味であるように思います。だから、見慣れた街並みもほんの少し視点や目的を変えれば、私たちが知らない表情を見せてくれ、新しい発見となる…作家・吉行淳之介よろしく「街角の煙草屋に行くのも旅と呼んでいい」のであります。普段は世界遺産の風変わりな風景や遺跡を求めて、10何時間も飛行機に乗りたがる私ですが、今年のGWの旅はビルの中数10メートルの距離。それでも、この街並みに俄然興味が湧いてきました。浜松の街は、まだまだ私の知らない表情を持っているのです。だから、街は面白い!

